



参考：阿部雅志、布施克彦著「中国がよ〜くわかる本」(秀和システム)、アジア経済研究所「アジア動向年報2005」、ほか

中国

09

B

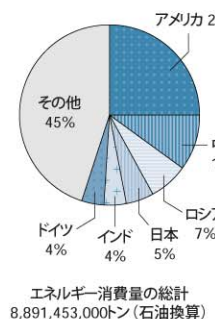
中国と世界、中国と日本

DATA

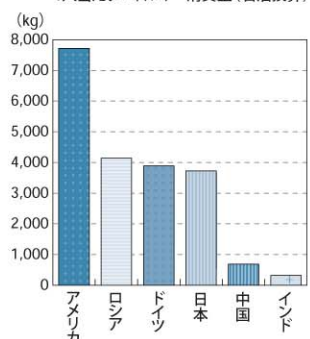
出典：総務省統計局「世界の統計2006」、国連開発計画 (UNDP) 「Human Development Report 2005」、財務省貿易統計、「EDMC/エネルギー・経済統計要覧2005年版」((財)省エネルギーセンター)ほか

エネルギー消費量

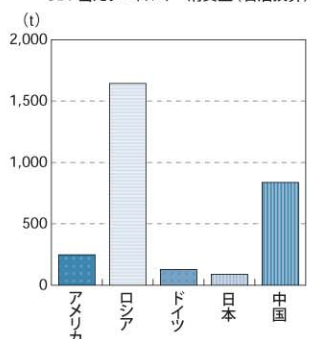
エネルギー消費割合 (2002年)



1人当たりエネルギー消費量(石油換算)

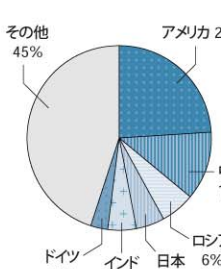


GDP当たりエネルギー消費量(石油換算)

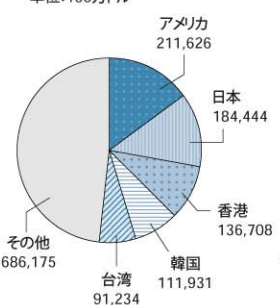
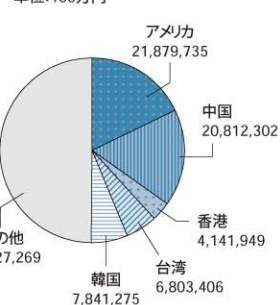
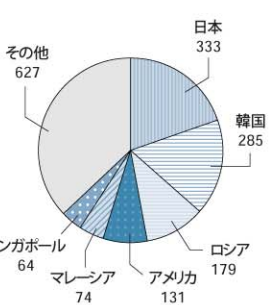
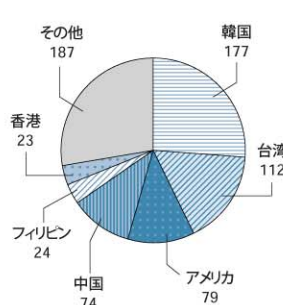


二酸化炭素排出量

二酸化炭素排出割合 (2000年)



中国と日本、強まる関係

中国の貿易相手国・地域
(2005年輸出入総額)
単位:100万ドル日本の貿易相手国・地域
(2005年輸出入総額)
単位:100万ドル訪中外国人数 (2004年)
単位:万人訪日外国人数 (2004年)
単位:万人

中国の問題は世界の問題

目覚ましい経済発展の下、中国のエネルギー消費量は伸び続けている。2002年の消費量を石油換算で見た場合、中国はアメリカに次ぐ世界第2位だった。エネルギー需要は外交政策にも反映し、今年に入ってアフリカやアラブ地域の産油国と活発な外交を展開している。

中国の二酸化炭素排出量は、1人当たりだと日本の3分の1以下と少ないが、国全体では世界第2位。中国は京都議定書を批准しているが、「途上国」として二酸化炭素など温室効果ガスの排出量規制を免れている。エネルギーも地球温暖化も一国の問題にとどまらない。

国際社会の協調が重要だ。

日本との関係はどうか。貿易額ではどちらもアメリカの次に重要な国となっている。人の往来に関しては訪中外国人では日本人がトップ、訪日では中国に台湾と香港を含めるとトップの韓国を追い抜く。両国のつながりはますます強まっている。

また、ここにデータはないが、中国内陸部の砂漠から飛来する黄砂も中国との関係を実感させる。黄砂の増加は中国の都市化や農地の拡大で砂漠化が進んでいるためといわれている。環境分野においても日本との協力が必要だ。

A

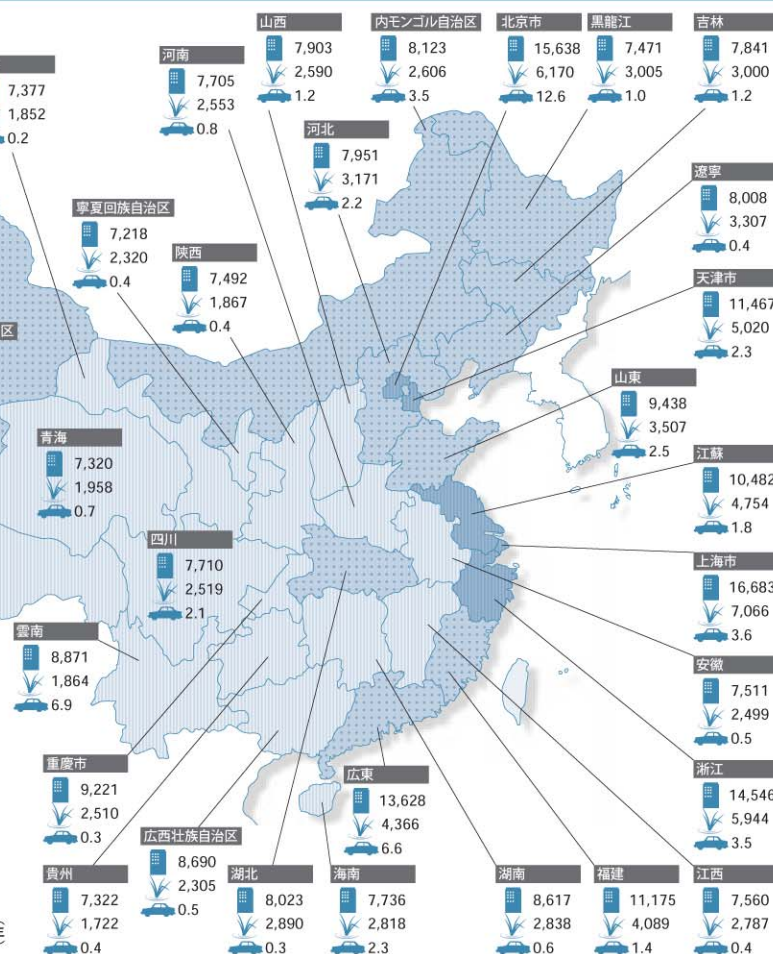
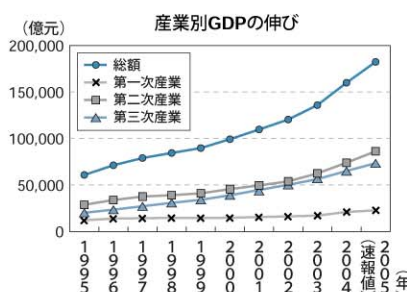
発展の中の格差

DATA

出典：リプロ「CHINA 2006 数字で読む・中国」



参考：中国人民銀行2004年7月30日発表時の1人民元は約13.528日本円



「三農問題」が重要課題に

市場経済メカニズムの導入以降、中国の成長はとどまるところを知らないようだ。国内総生産 (GDP) は過去10年間で実に3倍も増加した。こうした成長路線に弾みをつけた鄧小平の「先富論」は、条件の整った者から先に豊かになってもよいという内容だが、その結果、地域格差や所得格差が広がってしまった。

1人当たりGDPの高い地域は沿海部に集中し、また、同じ地域でも都市と農村では所得に数倍もの開きがある。2004年の1人当たりGDPが最も高かったのは上海

市の5万5,307元で、これは最も低かった貴州省の13倍だ。この差は乗用車など耐久消費財の保有状況にも表れている。

中国共産党は建国以来農業を重視し、今でも国民の6割が農村に住んでいる。成長から取り残された農村や農業の停滞、農民の貧困を重く見た胡錦濤政権は、農業税の撤廃などにより「三農問題」と呼ばれる農民、農村、農業の問題に取り組んでいる。社会保障など富の再分配システムを構築し、貧富の格差を是正する。それが今の中国にとっての最重要課題だ。